

救急医学講座

教授：小川 武希	脳代謝・頭部外傷，脳血管障害
教授：小山 勉	外傷・脊椎
准教授：大槻 穰治	外傷外科，スポーツ救急
講師：武田 聡	循環器疾患，医学教育
講師：大谷 圭	消化器疾患
講師：行木 太郎	外傷外科
講師：奥野 憲司	脳代謝・頭部外傷

教育・研究概要

I. 救急医学講座の概略

平成17年5月に，本学初の救急医学講座が発足した。平成22年には新たにレジデント2名を迎え，教授2名，准教授1名，講師4名，助教9名，非常勤3名，訪問研究員1名，計20名の編成となった。

本院は，初期治療室7床と14床のオーバーナイトベッド，一般病棟4床，ICU2床を有している。初期救急から神経，循環器を中心とする3次救急の一部までを担っている。また，柏病院では15床の病室を持ち，地域中核病院として3次救急を担っている。本院，柏病院ともに，重症例を含むプライマリケアを中心とする地域のニーズに応える幅広い救急医療を展開している。

また，平成23年度竣工予定の新青戸病院の開業向け，平成20年7月から，青戸病院救急部へ救急医学講座医師(救急専門医)の1名の派遣を行なっている。

II. 教育

1. 学生教育

1) 1学年：ユニット「救急蘇生実習(医学科，看護学科合同)」を担っている。

2) 講義は，3学年：ユニット「創傷学」を2コマ，及び4学年：ユニット「救急医学」を9コマ担当している。また，ユニット「診断系・治療系・検査系実習」ではCPR実習を10コマ麻酔科と担当している。

3) 5学年：ユニット「臨床実習救急医学」の実習期間は2週間である。初日にオリエンテーションを行い，前半を本院，後半を柏病院で，日勤・夜勤をマンツーマン方式で教育を行っている。また，実習最終日には総括として，症例発表を行っている。

4) 6学年：ユニット「選択実習」は実習期間1ヵ月を基本としている。本院，柏病院でそれぞれ3名

ずつ受入れている。

5) 国内・外からの学外学生に対する留学・見学実習を積極的に受け入れている。

6) 医学科看護学科2学年：科目「疾病・治療学I」の講義1コマを担当している。4学年「専門職シャドー体験実習」では2名/1日の学生を3日間受け入れている。

7) 慈恵看護専門学校2学年：科目「麻酔と手術療法」の講義2コマを担当している。

2. 初期研修医教育

本学の初期研修医は，以前よりスーパーローテート方式を採用していたため，平成16年度からの新初期臨床研修制度の施行後も本質的に指導方式は変わらない。平成22年度より救急部研修期間は3カ月に延長された。救急部研修は全診療科の全面的なバックアップの元に専属医と研修医のOJT(on the job training)と屋根瓦方式によるマンツーマン方式で行なわれている。臨床実習では，医療情報の伝達能力，トリアージ，心肺脳蘇生法，チーム医療の教授に重点を置いている。また，定期的に症例検討会を開催し，各研修医がより深い理解を得られるよう，専属医が指導を行っている。

3. 教職員教育

心肺蘇生教育の一環として，4病院CPR教育委員会を設立し，教職員を対照に定期的に慈恵ICLSコース，慈恵BLSコースを主導開催している。また，公的機関へ向けての講義・講習の依頼も増え，これに対応している。

4. 医師への啓蒙活動

「JATECコース(*)」開催担当施設として，コースディレクター・コーディネーターを担当し，コース運営に携わっている(*外傷診療に必要な知識と救急処置を，模擬診療を介して学習するトレーニングコース)。

III. 研究

1. 臨床例に基づく研究発表

全国規模の頭部外傷データバンク委員会(日本脳神経外傷学会)の主管幹事を担当しており，全国規模の重症頭部外傷の疫学的調査を継続して行っている。また，全国の治療標準となる「重症頭部外傷治療・管理のガイドライン」(日本脳神経外傷学会)第3版の作成作業を進めている。さらに，「低髄液圧作業部会」での検討を進め，低髄液圧症候群の病態について，より一層の理解を深めることにより，診断方法の確立を目指している。

厚労科研費研究事業である「脳血管障害の診断解

析治療統合システムの開発（いわゆる「スーパー特区」）分担研究者を担当。班会議への出席や学内外での発表に参加している。

自動車技術会会員として、より安全な自動車技術開発について交通事故症例を元に検討する、インパクトバイオメカニクス部門委員会に出席している。

2. 救急医療のあり方に関する学際的な研究

本院は首都圏の中心に位置するため、救急医療においても地政学的な展開をする運営形態を模索している。大都市災害、スポーツ大会などのマスイベント、航空事故における災害対応への研究を行なっている。

また、日本ボクシングコミッション（JBC）より委託され、後方支援病院として脳神経外科医師と共にコミッションドクターを担当しており、プロボクサーの試合に関わる健康管理を行っている。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災においては、4 病院の支援体制の主要的な役割を担った。

3. 医療連携における救急医療のあり方に関する検討

救急部門は 24 時間稼動する病院機能の基本的機能と考え、各医療機関との地域連携を図っている。都心部の大規模病院と合同で「救急診療を考える会」を設立している。また「救急」は医師における生涯教育の臨床現場としても有用であると考え医師会を中心に啓発活動を行っている。院内における救急体制（スタットコール体制）の整備を随時行なっている。

平成 21 年 8 月より運用を開始した「救急の東京ルール」に参加している。

IV. 診 療

全診療科の全面的な協力の下に初期救急から 3 次救急までを担う。柏病院では地域の 3 次救急医療施設の役割を担い、本院は特定機能病院としての高度なプライマリケアを主体とし、特に消化器、呼吸器、循環器、神経系、感染症の救急医療を中心に展開を試みている。青戸病院では、地域密着型の救急医療を目指し、本院との連携を強化している。

研 究 業 績

I. 原著論文

- 1) Murakami A¹⁾, Takasugi H¹⁾, Ohnuma S¹⁾, Koide Y¹⁾, Sakurai A²⁾, Takeda S, Hasegawa T³⁾, Sasamori J³⁾, Konno T³⁾, Hayashi K³⁾, Watanabe Y³⁾, Mori K³⁾, Sato Y¹⁾ (¹Tokyo Research Laboratories), Takahashi A³⁾ (³Fukushima Research Laboratories),

Mochizuki N²⁾ (²National Cardiovascular Center Research Institute), Takakura N (Osaka University). Sphingosine 1-Phosphate (S1P) regulates vascular contraction via S1P3 receptor: investigation based on a new S1P3 receptor antagonist. *Mol Pharmacol* 2010; 77(4): 704-13.

- 2) Otani K, Kasuga Y, Kimura Y, Mukaide M, Kyoyama H, Koyama T, Fujise K. Hepatitis B surface antigen is a better monitor of infectivity compared with antibody to hepatitis B core antigen in hemodialysis patients. *Ther Apher Dial* 2010; 14(4): 434-5.
- 3) 岸本幸一, 波多野孝史, 額川 晋, 三宅 亮, 大橋一善, 小山 勉. Silo closure が有用であった重症腎外傷の 2 例. *臨泌* 2010; 64(13): 1017-20.
- 4) 遠藤慎一¹⁾, 奥野憲司, 小林博雄¹⁾ (¹石岡脳神経外科病院), 小川武希, 幕内晴朗 (聖マリアンナ医科大学). 頸動脈内膜損傷の診断に MDCT が有用であった頸部刺創の 1 治験例. *臨外* 2010; 65(8): 1159-62.

II. 総 説

- 1) 奥野憲司. 【頭部外傷診療】集中治療 重症頭部外傷における頭蓋内圧管理. *救急医* 2010; 34(13): 1795-9.
- 2) 奥野憲司, 谷 諭. 【競技スポーツ帯同時に役立つ外傷初期治療ガイド 頻発するスポーツ外傷に対する処置・治療の実際】スポーツ外傷の疾患別処置の実際 頭部. *臨スポーツ医* 2010; 27 (臨増): 110-5.
- 3) 小川武希. 救急医療の現状. *松仁会医誌* 2010; 49(1): 1-8.
- 4) 大槻穰治, 小川武希, 谷 諭. Team Doctors Meeting 2009 (第 5 回) スポーツ現場での問題と対策, 予防 スポーツ中の重症外傷. *臨スポーツ医* 2011; 28(1): 75-8.
- 5) 大槻穰治, 小川武希. 【競技スポーツ帯同時に役立つ外傷初期治療ガイド 頻発するスポーツ外傷に対する処置・治療の実際】スポーツ外傷の疾患別処置の実際 胸部・腹部. *臨スポーツ医* 2010; 27 (臨増): 159-65.
- 6) 奥野憲司, 大橋一善, 小川武希. 【外科当直医必携】救急外来当直医必携 救急外来で必要な薬剤の知識 抗痙攣薬. *消外* 2010; 33(5): 726-30.

III. 学会発表

- 1) 小川武希, 黒岩敏彦 (大阪医科大学). (座長) (シンポジウム: 英語 2) Recent advances in neuro imaging in acute medicine. 第 16 回日本脳神経外科救急学会. 名古屋, 1 月.
- 2) 権田浩也, 権田浩也, 大瀧佑平, 三宅 亮, 潮 真也, 大橋一善, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 正常

- 分娩後に発症した小腸間膜軸捻転の1例. 第61回日本救急医学会関東地方会. 横浜, 2月.
- 3) 黒澤 明, 亀岡佳彦, 権田浩也, 大瀧佑平, 三宅 亮, 潮真也, 大橋一善, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 水中分娩後の弛緩出血によりCPAを来した一救命例. 第61回日本救急医学会関東地方会. 横浜, 2月.
- 4) 奥野憲司, 大槻穰治, 小川武希. 東京におけるER診療の現状. 第16回日本脳神経外科救急学会. 名古屋, 1月.
- 5) 小川武希. Recent progress on transcranial sonothrombolysis for acute ischemic stroke. 第1回東京脳神経超音波フォーラム. 東京, 11月.
- 6) 小川武希, 河井信行(香川大学). (座長)(一般口演) 頭部外傷(1). 日本脳神経外科学会第69回学術集会. 福岡, 10月.
- 7) 奥野憲司, 小川武希. 頭部外傷データベースプロジェクト1998と2004の比較-非交通事故例における飲酒の有無の影響. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日救急医学会誌 2010; 21(8): 696]
- 8) 大瀧佑平, 権田浩也, 亀岡佳彦, 金 紀鍾, 三宅 亮, 潮 真也, 大橋一善, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 大都市ER型救急と地方救命センター型救急における救急電話相談の比較と展望. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日救急医学会誌 2010; 21(8): 715]
- 9) 亀岡佳彦, 権田浩也, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 三宅 亮, 潮 真也, 大橋一善, 大谷 圭, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 喘息重積発作に対するステロイド大量療法施行後カンジダによる両側腎膿瘍を併発した1例. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日救急医学会誌 2010; 21(8): 631]
- 10) 潮 真也, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 三宅 亮, 大橋一善, 奥野憲司, 武田 聡, 大谷 圭, 大槻穰治, 小山 勉, 小川武希. 当院におけるAcute care surgeon教育-救急医と外科出向医の手術経験確保. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日救急医学会誌 2010; 21(8): 563]
- 11) 平沼浩一, 大槻穰治, 武田 聡, 奥野憲司, 金 紀鍾, 小川武希. 油性マジックインクの有機溶剤による急性中毒の1例. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日本救急医学会誌 2010; 21(8): 534]
- 12) 大槻穰治, 佐藤 順¹⁾, 吉野篤緒¹⁾(¹駿河台日本大学病院救命救急センター), 奥野憲司, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 行木太郎, 大谷圭, 武田聡, 平沼浩一, 小川武希. 望むべきER医と救急医の将来像. 第38回日本救急医学会総会・学術集会. 東京, 10月. [日本救急医学会誌 2010; 21(8): 442]
- 13) 杉浦真理子, 奥野憲司, 黒澤 明, 権田浩也, 大瀧佑平, 金 紀鍾, 平沼浩一, 大谷 圭, 大槻穰治, 小川武希. 救急車収容不能事例の検討. 第127回成医学会総会. 東京, 10月.
- 14) 大槻穰治. (座長)(一般演題) 頭頸部外傷. 第13回日本臨床救急医学会総会. 千葉, 6月.

IV. 著 書

- 1) 小川武希. 第4章: 救急看護の基礎 B. 救急処置法の実践. 矢永勝彦, 小路美喜子編. 系統看護学講座別巻: 臨床外科看護総論. 第10版. 東京: 医学書院, 2011. p.170-8.
- 2) 奥野憲司, 野中雄一郎, 谷 諭, 大槻穰治, 小川武希. III. 外傷 1. スポーツ頭部外傷治療のエビデンスは? 宮本 享, 新井 一, 鈴木倫保, 洪井壮一郎, 中瀬裕之編. EBM脳神経外科疾患の治療2011-2012. 東京: 中外医学社, 2010. p.212-8.

V. その他

- 1) 小川武希. 日本頭部外傷データベース業績目録. 神経外傷 2010; 33 (別冊)
- 2) 小川武希, 三村秀毅, 持尾聰一郎. 経頭蓋超音波併用脳血栓溶解法の再開通時間評価に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金(医療技術実用化総合研究事業)平成21年度総括・分担研究報告書 2010: 49-51.
- 3) 大槻穰治. (表彰)平成22年度港区優良救急医療従事者. 港区救急業務連絡協議会. 東京, 2月.